

小学校第 5 学年 音楽科学習指導案

1 題材 「曲のよさを考えよう」

2 教材 「威風堂々 第 1 番」(エルガー 作曲)

3 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は、新学習指導要領「B鑑賞」の「(1)ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと」及び「イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること」を受けて設定したものである。

新学習指導要領では、小学校音楽科における知識の習得に関する目標を「曲想と音楽の構造との関わりについて理解する」こととしている。「曲想と音楽の構造との関わりについて理解する」とは、ある音楽に固有の雰囲気や表情、味わいを、自らの感性を通して感じ取るとともに、その表情や味わいが、音楽を形づくっている要素のどのような働きによって生み出されているのかを、知性を働かせながら理解することと示されている。そこで、鑑賞の活動において、音楽を聴いて沸き起こった感情やイメージを、音楽の構造との関わりから捉え、自分にとっての曲のよさを見いだすことができる授業を目指す。

教材曲「威風堂々 第 1 番」は、はじめ－旋律A－旋律B－旋律A－旋律B－終わり（旋律Aは激しい動きの部分、旋律Bはゆったりした部分）で構成されており、旋律Aと旋律Bの曲想の違いや変化を感じ取りやすい特徴がある。旋律Aと旋律Bの部分のそれぞれの旋律やリズムの違いも聴き取りやすい。旋律Bの部分が同じ旋律を繰り返しながら、だんだん強くなり、楽器の数が増えて音の重なりが厚くなることで、曲全体がだんだん盛り上がっていることにも気付きやすい。音楽を形づくっている要素の働きを捉え、曲想と音楽の構造との関わりについて理解し、曲全体を味わって聴くのに適した教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期に、モーツァルト作曲「アイネクライネナハトムジーク第 1 楽章」とクリューガー作曲「メヌエット」の鑑賞学習を行っている。「アイネクライネナハトムジーク第 1 楽章」では、図形楽譜を見ながら聴くことで、特徴的な旋律を視覚的に捉え、音の重なり方の変化に気付くなどの学習に取り組んだ。また、「メヌエット」では長調と短調の特徴を知り、曲の中での調の変化を聴き取る学習を行い、ほとんどの児童が聴取できていた。その後、聴き取ったことや感じ取ったことを生かして、音色や音の重なりを工夫してリコーダーで表現する学習を行った。聴き取ったことや感じ取ったことを記述することは多くの児童ができていたが、その関わりを捉える記述については難しく感じる児童が多く、記述できていない児童も見られた。これらのことから、曲想と音楽の構造との関わりについて考え、理解を図る学習を更に充実させる必要があると考える。

(3) 指導観

指導に当たっては、曲想と音楽の構造との関わりや音楽の特徴を理解する手立てとして、楽譜で確かめる活動を取り入れる。楽譜は、音楽の構造を可視化したものであり、聴き取り感じ取ったことを確かめる根拠になると考える。楽譜で確かめる以外にも、聴覚や体の動きなど様々な感覚を働かせて、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるようにしたい。

1 時目は、曲を聴いて、曲想と音楽の構造との関わりを考えさせる。グループや全体で交流する活動を取り入れることで、聴き取り感じ取ったことをたくさん出し合い、共有できるようにする。

2 時目は、1 時目に児童から出た曲想と音楽の構造との関わりについて楽譜で確かめさせる。また、歌ったり、体の動きなどを入れたりしながら聴くことで、曲想と音楽の構造との関わりについて理解を図る。

3 時目は、曲全体がどのように変化しているかを聴き取らせることで、気分が高揚する曲想と、その根拠になっている音楽の構造との関わりについて理解を図る。また、曲の背景となるような知識を伝えることから、曲のよさを考えることができるようにする。

楽譜は、2 時目では、旋律 A、旋律 B、それぞれの特徴に気付きやすくするために、主旋律のみの楽譜を提示する。3 時目では、更に音の重なりに気付くことができるように、総譜（フルスコア）を提示する。総譜を見ながら聴くことで、聴き取った音の重なりによる響きを視覚的にも確かめることができるようにする。このように段階的に楽譜を提示していくことで、聴覚と視覚を関わらせながら、音楽の縦と横との関係をより深く理解できるようになると考える。

また、楽譜を見て特徴に気付いたり確かめたりしたことについてグループで交流する活動を取り入れる。そのことで、友達の多様な考えを知ったり、同じ考えに共感したり、曲想と音楽の構造との関わりについて共有したりして、学習を深めることができるようにする。

4 題材の目標

楽譜で曲の特徴の根拠を見付けたり気付いたりする活動を通して、聴き取ったことと感じ取ったこととを関連付けながら曲想と音楽の構造との関わりを理解し、曲のよさについて考えをもつ。

5 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度【関】	鑑賞の能力【鑑】
① 音楽を形づくっている要素によってつくられる楽曲の曲想とその変化を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。	① 感じ取った曲想とその変化などの特徴と、音楽を形づくっている要素との関わりを考え、理解している。 ② 楽曲の特徴や演奏のよさを理解して、味わって聴いている。

6 本題材で位置付ける〔共通事項〕

(ア) 音楽を特徴付けている要素…リズム、旋律、強弱、音の重なり

7 題材の指導計画と評価計画

時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準〈評価方法〉
1	◎曲想と音楽の構造との関わりを考えながら聴く。 ○曲を聴いて感じたこととそのように感じた理由を考える。 ・旋律 A、旋律 B、2 つの特徴的な旋律があることを知る。 ・感じ取った曲想と、そのように感じた理由について考える。 ・グループで交流する。 ・全体で交流する。	【関－①】〈行動の観察、発言の内容、ワークシートの記述〉 【鑑－①】〈発言の内容、ワークシートの記述〉
2	◎旋律 A、旋律 B、それぞれの曲想と音楽の構造との関わりについて	【鑑－①】〈発言の内

本時	て考え、理解する。	容、ワークシートの記述>
	○旋律A, 旋律B, それぞれの曲想と音楽の構造との関わりを確かめる。 ・楽譜を手掛かりにして, 曲の特徴を確かめる。 ・グループで交流する。 ・全体で交流する。	
3	◎曲全体の曲想と音楽の構造との関わりから, 曲のよさを考える。	【関－①】<行動の観察, 発言の内容, ワークシートの記述> 【鑑－②】<発言の内容, ワークシートの記述>
	○曲全体の変化を考える。 ・曲全体がどのように変化しているかを聴き取る。 ○曲全体がだんだん盛り上がっている根拠を考える。 ・変化を感じる理由を考える。 ・楽譜を手掛かりにして, 変化を感じる理由を確かめる。 ・全体で交流する。 ・曲の背景となるような知識を聴き, 曲のよさを考える。	

8 本時の目標

旋律A, 旋律B, それぞれの曲想と音楽の構造との関わりについて考え, 理解することができる。

9 本時の展開 (2/3)

	学習活動	指導・支援	評価<方法>
導入	1. 本時のめあてをつかむ。 ・体の動きを入れて曲を聴く。 ・前時に聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えたことを振り返る。	・体の動きを入れて聴くことで, 前時の学習で聴き取り感じ取ったことを振り返るようにする。 ・前時に聴き取り感じ取ったことを旋律A, 旋律B, 全体に分けたものを掲示し, それを見ながら前時の学習を振り返らせる。	
	めあて AとBの特ちょうを確かめよう。		
展開	2. 活動の見通しをもつ。 ・確かめる方法を考える。	・前時に聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えたことについて確かめられる方法として, 楽譜を用いることを気付かせる。	
	3. 曲想と音楽の構造との関わりを楽譜で確かめる。 ・楽譜の見方を知る。 ・楽譜で確かめる。 一人で考える。	・楽譜を見ながら, リズムや旋律を確かめたり, 未習の記号について意味を教えたりする。 ・楽譜から特徴を見付けられない児童が多い場合は, 旋律を結んだ楽譜や, 音の長さを表した楽譜を掲示して, 理由の根拠に気付くよう	

	<p>グループで交流する。</p> <p>全体で交流する。</p> <p>4. 学習を振り返る。</p>	<p>に促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ交流で、全員の考えを共有するために、1人ずつ楽譜を指しながら説明するように伝える。 全体交流では、曲想と音楽の構造との関わりを理解できるように、児童の説明が伝わらないところは児童に詳しく尋ねたり、体を動かして確かめさせたりする。 グループや全体での交流を通し、曲想と音楽の構造との関わりについて理解したことをワークシートに書くことによって、学習の深まりを振り返る。 	<p>【鑑－①】旋律A, 旋律B, それぞれの曲想と音楽の構造との関わりについて考え、理解している。〈発言の内容, ワークシートの記述〉</p>
<p>終末</p>	<p>5. 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、曲全体に広げて、曲が愛されている理由を考えていくことを伝える。 	

10 本時の評価規準と評価方法

<p>旋律A, 旋律B, それぞれの曲想と音楽の構造との関わりについて考え、理解している。</p> <p>【鑑－①】〈発言の内容, ワークシートの記述〉</p>		
<p>十分満足 (A) と判定する目安</p>	<p>おおむね満足 (B) と判定する目安</p>	<p>(B)に達していない児童への手立て</p>
<p>曲想と音楽の構造との関わりについて音楽を形づくっている要素と2つ以上関連付けて記述している。</p>	<p>曲想と音楽の構造との関わりについて音楽を形づくっている要素と関連付けて記述している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●他の音楽を形づくっている要素の観点からも考えられないか声を掛けたり、友達との交流によって分かったことはなかったかを尋ねたりする。 ●楽譜を見ながら、リズム打ちをしたり体を動かしたりすることで、音楽を形づくっている要素の違いを比較するように声を掛ける。